

# Twitter で観察される新しい「命令」「禁止」表現

岡田 祥平 (新潟大学)

## 1. はじめに

仁田(2014)では、「文に担われている話し手の発話・伝達的態度(発話・伝達のモダリティ)の一種」であり「話し手が自らの願望に沿った事態の実現を聞き手に働きかける」「命令」について、A「実現を要請される事態」とB「事態実現への働きかけ方」<sup>1</sup>の2観点から、以下の図1のように分類している。

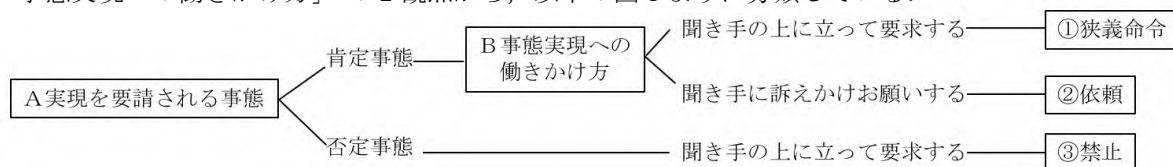


図1 「命令」の諸相 (仁田, 2014 に基づく)

現代日本語の動詞には、仁田(2014)のいう「①狭義命令」の形式として〈動詞の命令形〉(例: 「しろ」)が、「③禁止」の表現として〈動詞の終止形+終助詞「な」〉(例: 「するな」)が存在している。しかし、それらの表現は「聞き手に直接発話できる場合は限られ」「普通、女性は使いませんし、男性が使う場合も、聞き手が丁寧さの配慮の全くいらぬ相手(子・兄弟・親しい友人など)である場合か、丁寧さに配慮できない緊急の場合やけんかのときなどに限られ」(松岡(編), 2000. 例文番号は省略)。それゆえ、「命令」や「禁止」の意図を伝達する際には、蒲谷ほか(2009)で述べられている通り<sup>2</sup>、「依頼」の表現形式(例: 「してもらえますか」など)が使用してされることが多いように思われる。その背景としては、何らかの行動をするのは聞き手であるにもかかわらず行動の決定権は聞き手にない(話し手にある)「命令」の表現形式(註1に加え、蒲谷ほか, 1998; 蒲谷ほか, 2009を参照)の使用を避けることにより「丁寧さ」を演出しようとする、話し手の配慮が関係していると考えられる。

このように、現代日本語では〈動詞の命令形〉や〈動詞の終止形+終助詞「な」〉が使用される(使用できる)場面は非常に限定されているわけだが、近年、Twitter では以下の(1)や(2)のように、〈動詞の命令形〉や〈動詞の終止形+終助詞「な」〉に「てください」が後続した表現を見出すことができる(下線は筆者による)。

(1) 参加しろください (ツイート日は2023年1月4日・[https://twitter.com/soda\\_math/status/1610507977127268352](https://twitter.com/soda_math/status/1610507977127268352))

(2) (前略) ポーズがおかしいのは気にするなください

(ツイート日は2022年12月29日・<https://twitter.com/okzknenn/status/1608116323820896258>)

そこで、本発表では、Twitter でのこの種の表現の使用状況の実態を素描したうえで(2節, 3節)、この種の表現が生まれ使用されている背景について小考を試みたい(4節)。なお、本稿では以下、(1)のように〈動詞の命令形〉や〈動詞の終止形+終助詞「な」〉に「てください」が後続している表現形式を〈命令+クダサイ〉と、(2)のように〈動詞の終止形+終助詞「な」〉に「てください」が後続している表現形式を〈禁止+クダサイ〉と、それぞれ表現する。

## 2. 各表現の Twitter における使用状況の確認

まず、Twitter における〈命令+クダサイ〉と〈禁止+クダサイ〉の使用状況を確認するために、二つの調査を行った。2.1 で述べる調査①は各表現の初出時期を確認するために、2.2 で述べる調査②は本稿執筆時点において各表現で使用されやすい動詞があるのかを確認するために、それぞれ実施したものである。

### 2.1 調査①: 初出時期

以下の表 1<sup>3</sup>は〈命令+クダサイ〉〈禁止+クダサイ〉の Twitter での初出年月日と初出年における用例数を確

<sup>1</sup> 蒲谷ほか(1998; 2009)や松岡(編)(2000)では、「実現を要請される事態」を聞き手が実行するかどうか、その決定権を聞き手自身が有しているか否かによって(仁田, 2014 のいう)「①狭義命令」と「②依頼」とを区別している。

<sup>2</sup> 蒲谷ほか(2009)には、以下のような記述が存在する。

本音の意図は命令でも、依頼のような表現をすることがあります。例えば、会社で上司が部下に「御客様にお茶を入れてくれませんか。」というような場面です。

それは、命令する表現ではなく、決定権を相手に渡し、あたかも依頼をしているかのような表現をすることで、丁寧にしようとしている、ということが出来ます。

こうした表現は、あたかも〇〇を意図としているかのような表現ということで、待遇コミュニケーションでは「あたかも表現」と名づけています。上の例は、あたかも依頼表現となります。

<sup>3</sup> 表1に示した用例数の中にはリツイートは含んでいない。また、今回の調査対象となる表現であると明確に判断できた用

認した<sup>4</sup>結果をまとめたものである。

表1 Twitterにおける〈命令+クダサイ〉〈禁止+クダサイ〉の初出年月日と初出年における用例数

活用型	調査対象動詞	〈命令+クダサイ〉			〈禁止+クダサイ〉		
		検索表記	初出年月日	初出年における用例数	検索表記	初出年月日	初出年における用例数
五段	言う	言え	2010年9月22日	2	言うな	2010年11月22日	1
上一段	いる(居る)	いろ	2011年8月25日	3	いるな	2011年3月10日	1
下一段	考える	考えろ	2011年1月6日	40	考えるな	2013年4月28日	1
カ行変格	来る	来い	2010年4月25日	15	来るな	2011年12月26日	2
サ行変格	する	しろ	2009年7月27日	7	するな	2011年1月10日	18
		せよ	2010年6月1日	4			

簡単な調査ではあるが、表1からは以下のような傾向が読み取れる。

I 〈命令+クダサイ〉はおおよそ2010年ごろから、〈禁止+クダサイ〉は2011年ごろから、それぞれ使用されるようになる。ただし、動詞によって使用されるようになった時期は異なる。

II 基本的には〈命令+クダサイ〉の使用が〈禁止+クダサイ〉の使用に先行する(例外は「いる」)。

なお、「来ください」の初出年における用例15例のうち10例が、(3)ように大規模匿名掲示板「2ちゃんねる」(現「5ちゃんねる」)のスレッド名を紹介するツイートであった。このことから、〈命令+クダサイ〉は、Twitterで使用される以前に「2ちゃんねる」で使われていたと可能性が高い<sup>5</sup>。

(3) CM 音楽詳しいやつちょっと来ください @ニュース速報(VIP) (当該スレッドのURLは省略)

(ツイート日は2010年9月24日・<https://twitter.com/shitsumontatter/status/25385962442>)

また、上一段活用動詞と下一段活用動詞には表1で示した以外の命令形も存在するが(「いよ」「考えよ」)、それらの形式が使用された〈命令+クダサイ〉においては用例がほぼ看取できなかった(「いよ」は用例なし、「考えよ」は初出から2022年12月31日までの用例が4件)。

## 2.2 調査②：各表現で使用されやすい動詞

以下の表2と表3に、本稿執筆時点(2023年1月初旬)において当該表現で使用されやすい動詞をまとめた<sup>6</sup>。

表2 〈命令+クダサイ〉に前節する動詞(計48例)

前接する動詞	用例数
待ってる	19
惚気る	6
する	5
引っ込む	4
任せる・見る	2
あげる・死なせる・すっこんでる・デレる・寝る・飲んでる・やめる(・慎む)	各1

表3 〈禁止+クダサイ〉に前節する動詞(計59例)

前接する動詞	用例数
来る	11
する	10
上げる・舐める・伸びる・ふざける・触れる・忘れる	各2
言う・行く・植える・撃つ・奪う・覚える・襲う・終わる・考える・聞く・消す・死ぬ・近寄る・使う・出る・泣かす・泣く・逃げる・寝やがる・離れる・聞く・巻き込む・混ぜる・見せる・見る・読む	各1

表2と表3からは、以下のような傾向が読み取れる。

III 〈命令+クダサイ〉、〈禁止+クダサイ〉ともに、様々な動詞に接続する。

IV 一方で、用例数が多い動詞もある(〈命令+クダサイ〉は「待ってる」、〈禁止+クダサイ〉は「来る」「する」)。

このことから、一部の動詞については表現の慣用化、チャンク(chunk)化が進行している可能性がある。

なお、ことから表2でカッコ内に記載した「慎む」は「外野は口を慎めろください」といった用例であった。「慎む」の命令形は「慎め」であるから予想される表現は「口を慎めください」のはずである。しかし、今回の調査で看取された「口を慎めろください」という表現は、「ロクダサイ」が(丁寧な)命令を表す文末表現として析出され、動詞命令形に接続する表現が(「クダサイ」ではなく)「ロクダサイ」と変化しつつある萌芽的な

例の数を記入している(すなわち、少数であるが判断に迷う用例も存在していたということである)。

<sup>4</sup> この調査ではTwitter公式の「高度な検索」で表1の「検索表記」に示した文字列以外は検索をし、初出時期や初出年における用例数を確認した(つまり、今回の調査は表記のゆれまで配慮はしていない)。なお、調査対象とした動詞のうち五段、上一段、下一段の各活用型については、原則として国立国語研究所コーパス開発センター(2017a)での「全体での順位」(国立国語研究所コーパス開発センター, 2017bも参照)が各活用型の中で最も高かったものである(「言う」が18位、「いる(居る)」が13位、「考える」が92位)。なお、五段活用動詞は「言う」よりも「有る」のほうが順位は高かったが(16位)、「有らない」とは言わず、命令形「有れ」も「普通では使わない」(会田ほか(編), 2011)ため、今回は「言う」を検索対象とした。また、参考までに、「来る」と「する(為る)」の順位はそれぞれ43位、8位である。

<sup>5</sup> この点については、3節で紹介する若年層(大学生)を対象に行った小調査で提供された、「インターネット掲示板でも見られる表現である(現在はあまり見かけない)」との情報とも軌を一にする。

<sup>6</sup> この調査の手順は以下のとおりである。まず、鳥海不二夫氏による「Web Tweet Crawler」(<http://torix.sakura.ne.jp/twitter/>。詳細は鳥海, 2020も参照)で文字列「ろください」「なくください」を検索し、検索時点からそれぞれの文字列を含む直近(2022年12月26日~2023年1月5日)のツイート(リツイートは含まない)をダウンロードした。そのうえで、目視で用例を確認し、それぞれの表現に前接する動詞別に用例数(判断に迷ったものは除く)をまとめた。

用例なのかもしれない。

### 3. 当該表現における若年層（大学生）の意識

当該表現が若年層にどの程度受け入れられているのかについて、某大学で大学生を対象に小調査を行った。本節では、大学1年生から4年生までの50人を対象にWeb上でアンケート調査を行ない、39名からの回答が得られた結果の概略を紹介する（なお、匿名で回答してもらったため、回答者の属性の詳細は不明）。

まず、当該表現について、自分が使うか、あるいは人が使っているのを見聞きしたことがあるかを確認した。その結果が、以下の表4である。

表4 当該表現に対する若年層（大学生）の使用意識（単位は人数）

	〈命令＋クダサイ〉	〈禁止＋クダサイ〉
①自分で使うし、人が使っているのを見聞きしたことがある	4	1
②自分で使うが、人が使っているのを見聞きしたことはない	0	0
③自分では使わないが、人が使っているのを見聞きしたことがある	23	5
④自分も使わないし、人が使っているのを見聞きしたことはない	12	33

表4からは、以下のような事実を指摘することが出来る。

V 若年層（大学生）においては、自身が使っている者は少数派であるものの、見聞きした経験を持つ者は少なくない（特に〈命令＋クダサイ〉について）。

次に、当該表現を自分で使う、あるいは人が使っているのを見聞きしたことがあるとした回答者について、どのような媒体、場面で使っているのか、あるいは使っているのを見聞きしたのかを選択肢を示して確認した（複数回答を可とした）。その結果が表5である。表5からは以下のような傾向を読み取ることができる。

VI 当該表現は主にTwitterでの使用されている<sup>7</sup>。

（Twitterと共にソーシャルメディアの一種とされる<sup>8</sup>LINEやInstagram, Facebookでは使用されにくいようである<sup>9</sup>。）

なお、表5に関連し、本調査における自由記述欄において、「SNS以外の場では使わない」「日常生活やLINEで使用すると違和感がある」「ネットミーム化してテンプレになっている気がする」という言及もあったことを付記しておく。

表5 当該表現に対する若年層（大学生）の使用／接触する媒体／場面

選択肢	回答数
Twitter	24
LINE	3
Instagram・日常会話・テレビ番組	各2
Facebook	0
その他	3

### 4. 議論

以上、近年、Twitterで観察される新しい「命令」「禁止」表現〈命令＋クダサイ〉〈禁止＋クダサイ〉について、Twitterでの使用実態（2節）と当該表現に対する若年層（大学生）の意識（3節）を素描した。その結果、本稿執筆時点（2023年1月初旬）においては、まだTwitterでの使用に限定されるうえに（VI）若年層においても使用は広がっていない一方で（V）、Twitterでは10年以上前から使用されていること（I）や現在では様々な動詞と結びついて使用されている（III・IV）ことなどが確認できた。

それらの点を踏まえ、本節ではなぜTwitterで使用されるようになったのかを考えたい。

この点について、3節で紹介した若年層（大学生）を対象に行った小調査の自由記述欄に、以下のような示唆に富むコメントがあった（下線は筆者による。（4）と（5）は異なる回答者）。

（4）Twitterで絵師さん（自分で書いた絵を投稿している人）が自分の絵を見て欲しい時に「見ろください」というように使っているのを見た事がある。ここでは、見て欲しい気持ちが強いので「見ろ」と入れているものの、そのツイートは不特定多数の人に見られるため、「ください」という表現を用いて少し緩和させているように感じた。

（5）絵師さんなどが自分の絵を掲載する時などに使われているように思います。「私の絵を見る！」という強い気持ちと「良かったら見てください...」という謙虚な気持ちが混ざったような文体に人間らしさを感じて面白いなと思っていました。

これらのコメントを踏まえると、〈命令＋クダサイ〉〈禁止＋クダサイ〉は、相手への丁寧さを考慮、配慮し

<sup>7</sup> ただし、発表者がこの表現に初めて接したのはYouTubeであった。

<sup>8</sup> たとえば、総務省情報通信政策研究所(2022)では、「ユーザー同士の交流やコミュニケーションを主な目的とするソーシャルメディア系サービス/アプリに動画等の共有サイトを加えた」11のサービス（LINE, Twitter, Facebook, Instagram, mixi, GREE, Mobage, Snapchat, TikTok, YouTube, ニコニコ動画）を「主なソーシャルメディア系サービス/アプリ等」として位置付けている。

<sup>9</sup> 註9でも言及した総務省情報通信政策研究所(2022)には2021年度の「主なソーシャルメディア系サービス/アプリ等の利用率」を調査した結果が紹介されており、Facebook利用率は「10代の利用率は、各年代の中で最も低くなっている」と指摘されている（13.5%。20代から50代の利用率はいずれも30%以上であり、60代の利用率も19.9%である）。この点を踏まえると、今回の調査でFacebookを選択した回答者がいなかったのは、そもそも今回の調査対象の回答者の中にFacebookのユーザーが少なかったためだとも考えられる（50人中43名が10代の可能性もある大学1, 2年生。ただし、今回の調査では回答者に対して各種SNSの使用実態を確認していない）。

つつ、「命令」「禁止」といった「強い気持ち」を伝える<sup>10</sup>ために生み出された新たな表現であると考えられる。と同時に、当該表現は、近年、「デス」に見られる動き（従来は名詞に接続していた「デス」が形容詞、さらには動詞にも接続するようになった動き）とも関連付けられるのではないかと。川口（2014）は近年の「デス」に見られる動きを「現代日本語における丁寧体のデスへの収束に至る言語変化の過程として捉え」ているが、当該表現は、丁寧体における「命令」や「禁止」に関する表現の単純化（結果として、註2で紹介した蒲谷ほか、2009のいう「あたかも表現」を使用しなくてもよくなる動き）とも位置付けられるのではないかとということである。

もっとも、当該表現が「デスへの収束に至る言語変化」と軌を一にすると考えるならば、「しろです」「するなです」といった表現が生まれなかったのかという疑問が残る。ただ、「しろです」「するなです」といった表現は、書き手が命令・指示されたことを丁寧に紹介する用法（(6)・(7)）や書き手の見解を不特定多数に丁寧に伝える用法<sup>11</sup>（(8)）としての使用が少なくない（この種の用法<sup>12</sup>の用例は、少なくともTwitterでは非常に多く看取できる）。それゆえ、「しろです」「するなです」といった表現を相手への丁寧さを考慮、配慮した命令・禁止表現として使用してしまうと、(6)(7)(8)のような用法と衝突してしまう可能性がある（ただし、「です」のあとに引用を表す「って」や終助詞「ね」「か」などが接続するか否かなどによって、区別は可能であろう）。それゆえ、新しく〈命令＋クダサイ〉〈禁止＋クダサイ〉が生み出され、少なくともTwitterでは使用が広がったと考えられるのではないかと。

(6) お仕事。意味不明なちょっとお門違いじみたメール転送された揚句、とりあえず検討結果返信しろですって。（後略）  
（ツイート日は2007年7月30日・<https://twitter.com/kyukyu9101f/status/175916742>）

(7) 38℃以上あったら出勤するなですか

（ツイート日は2009年5月20日・<https://twitter.com/oily1204/status/1852832167>）

(8) 儲からないことを社会のせいにするなです。

（ツイート日は2009年12月27日・<https://twitter.com/oily1204/status/1852832167>）

以上のように、相手への丁寧さを考慮、配慮した命令・禁止表現として新しく生み出されたと考えられる〈命令＋クダサイ〉〈禁止＋クダサイ〉であるが、3節末尾で言及した通り、現時点では若年層（大学生）においても（Twitter以外で）使用することについては抵抗感が大きいようである。しかし、2020年前後あたりから、「Yahoo!知恵袋」においても、数は非常に限定されているものの〈命令＋クダサイ〉〈禁止＋クダサイ〉の用例が確認できる。Twitterや「Yahoo!知恵袋」の言語資料としての性格に鑑みると（詳細は、岡田、2014の4節や岡田、2018の4節を参照）、〈命令＋クダサイ〉〈禁止＋クダサイ〉がTwitter以外の場においても使用されるようになることを示唆しているのかもしれない。

## 参考文献

- 会田貞夫・中野博之・中村幸弘（2011）. 改訂新版 学校で教えてきている現代日本語の文法 右文書院
- 岡田祥平（2014）. インターネットを利用した新語・流行語研究の可能性 —「Twitter」の蔑称の拡散過程の検証を例として— 新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編, 6(2), 127-154.
- 岡田祥平（2018）. 現代における〈先端的な動向の解明〉のための言語資料 —Twitter と「質問サイト」を例に考える— 日本語学会 2018年度秋季大会予稿集, 235-240.
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1998）. 敬語表現 大修館書店
- 蒲谷宏・金東奎・高木 美嘉（2009）. 敬語表現ハンドブック 大修館書店
- 川口良（2014）. 丁寧体否定形のバリエーションに関する研究 くろしお出版
- 国立国語研究所コーパス開発センター（2017b）. 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語彙表 (Version 1.1) <http://doi.org/10.15084/00003219>（2023年1月5日確認）
- 国立国語研究所コーパス開発センター（2017a）. 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』語彙表 ver.1.1 解説 <http://doi.org/10.15084/00003282>（2023年1月5日確認）
- 総務省情報通信政策研究所（2022）. 令和3年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査 [https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000831290.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000831290.pdf)（2023年1月4日確認）
- 鳥海不二夫（2020）. 意見があったのでツイートを収集する WEB アプリを作ってみた話 <https://note.com/torix/n/nf3d5de345a28>
- 仁田義雄（2014）. 命令 日本語文法学会(編) 日本語文法事典 大修館書店 pp.615-616
- 松岡弘(編)(2000). 初球を教える人のための日本語文法ハンドブック スリーエーネットワーク
- メイナード・K・泉子（2000）. 情意の言語学 「場交渉論」と日本語表現のパス くろしお出版.

<sup>10</sup> 若年層（大学生）を対象に行った小調査の自由記述欄に「命令形よりも柔らかい印象になって、コミュニケーションのすれ違いが減りそう」「友達に命令口調で何かをお願いする時に申し訳程度の丁寧表現として使うことが多い」といった言及があったことから、この表現が相手への丁寧さを考慮、配慮している側面があることが伺える。

<sup>11</sup> Twitter上の用例は文脈が把握しにくく、(8)は〈禁止＋クダサイ〉に相当する用例にも思える。しかし、(8)は（特定相手への働きかけではなく）「儲からないことを社会のせいにするな」という自身の主張を広く伝えるツイートだここでは判断した。一方、〈禁止＋クダサイ〉の用例として紹介した(2)は、自身が描いたイラストが付けられている。つまり、(2)は「自身が描いたイラストを見た人」という特定の相手に対して働きかけており、(8)とは性格を異にすると判断した次第である。

<sup>12</sup> この種の用法の中には、メイナード（2000）のいう「情意の「だ」」に相当するものも含まれよう。